

熊本県の観光・レジャーに関するアンケート(2025年12月調査)

「熊本県の観光・レジャーに関するアンケート(2025年12月調査)」を実施した結果を公表いたします。(発送数:283、回収数:106、回収率:37.5%、回収期間:2025年12月19日～2026年1月9日)本アンケートは、県内の観光・レジャーの動向をいち早く捉えるために実施しております。

1. 熊本県観光DI まとめ

	現状判断DI (10月～12月)	見通しDI (1月～3月)
合計(N=106)	55.7	44.8
行政・協会(N=42)	59.5	49.4
宿泊施設(N=23)	54.3	38.0
集客施設(N=16)	51.6	34.4
飲食・物販(N=6)	70.8	62.5
交通・代理店(N=15)	48.3	45.0
その他(N=4)	43.8	50.0

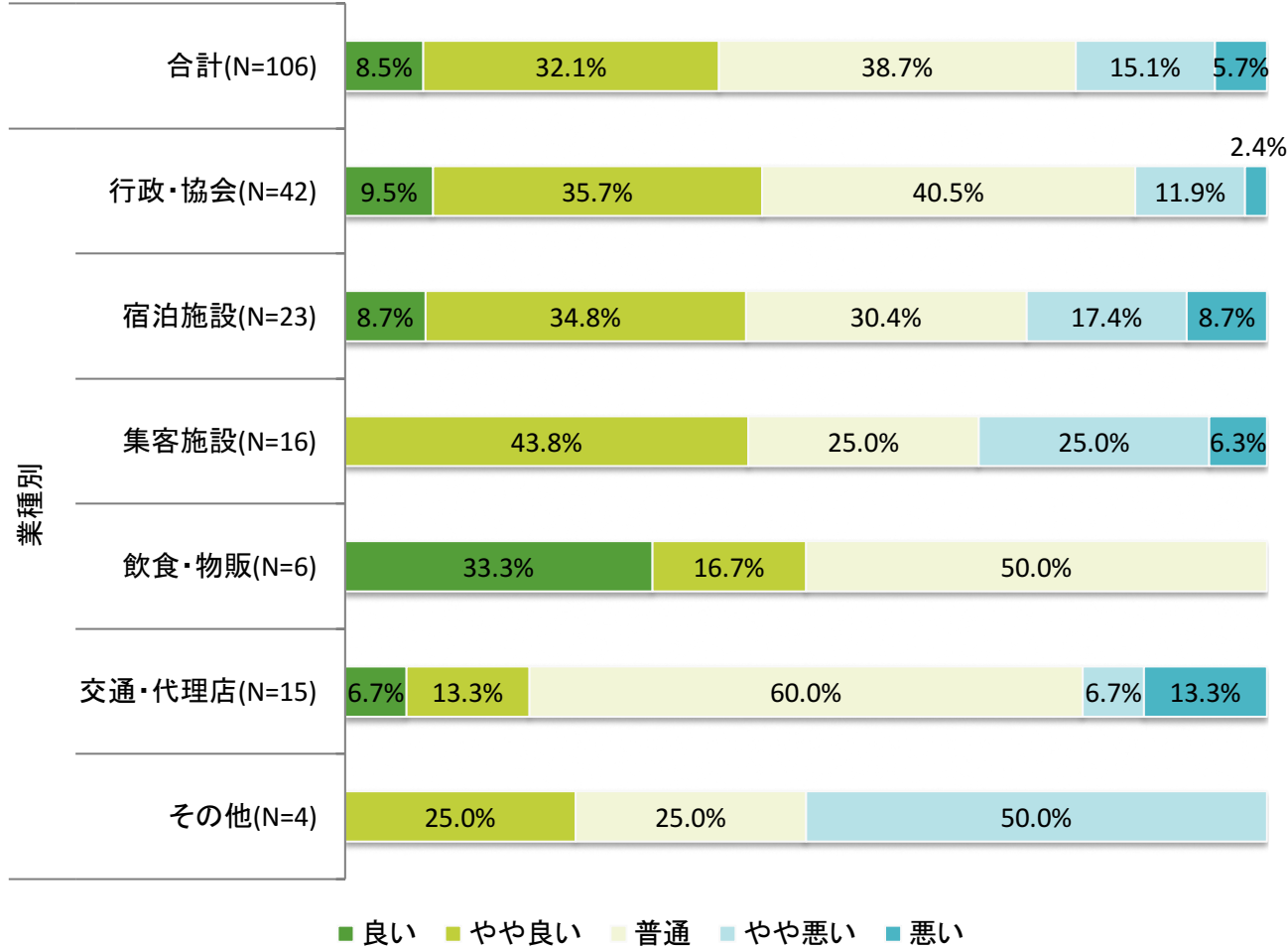
10～12月の熊本県の現状判断DIは55.7となり、前期(43.3)から12.4pt上昇した。業種別にみると、行政・協会、宿泊施設、集客施設、飲食・物販の4業種で景況判断の節目である50を上回っていた。

中国人観光客の減少により景況感が落ち込んでいるとするコメントも一部に見られるものの、全業種を通じて、イベントや学校行事による国内観光客の持ち直しや、中国以外のインバウンド客の増加を挙げるコメントが見られ、現状判断DIが大幅に上昇する結果となった。

見通しDIは44.8となり、前回(55.2)から10.4pt低下した。飲食・物販、その他の2業種でDIは50以上であった。

見通しを悪くなると判断する要因としては、中国人観光客の回復が見通せないことや、閑散期入りによる観光客数の減少を指摘するコメントが見られた。一方、良くなると判断する要因として、台湾・韓国からの直行便増加によるインバウンド客の増加や、各種イベントの開催が予定されていることといったコメントが見られた。

2. 10～12月期の動向、景況感



10～12月の景況感は、全体では「良い」と「やや良い」の合計が40.6%、「悪い」と「やや悪い」の合計は20.8%となった。

業種別にみると、飲食・物販で「良い」と「やや良い」の割合が過半数を占める。

【コメントの抜粋】

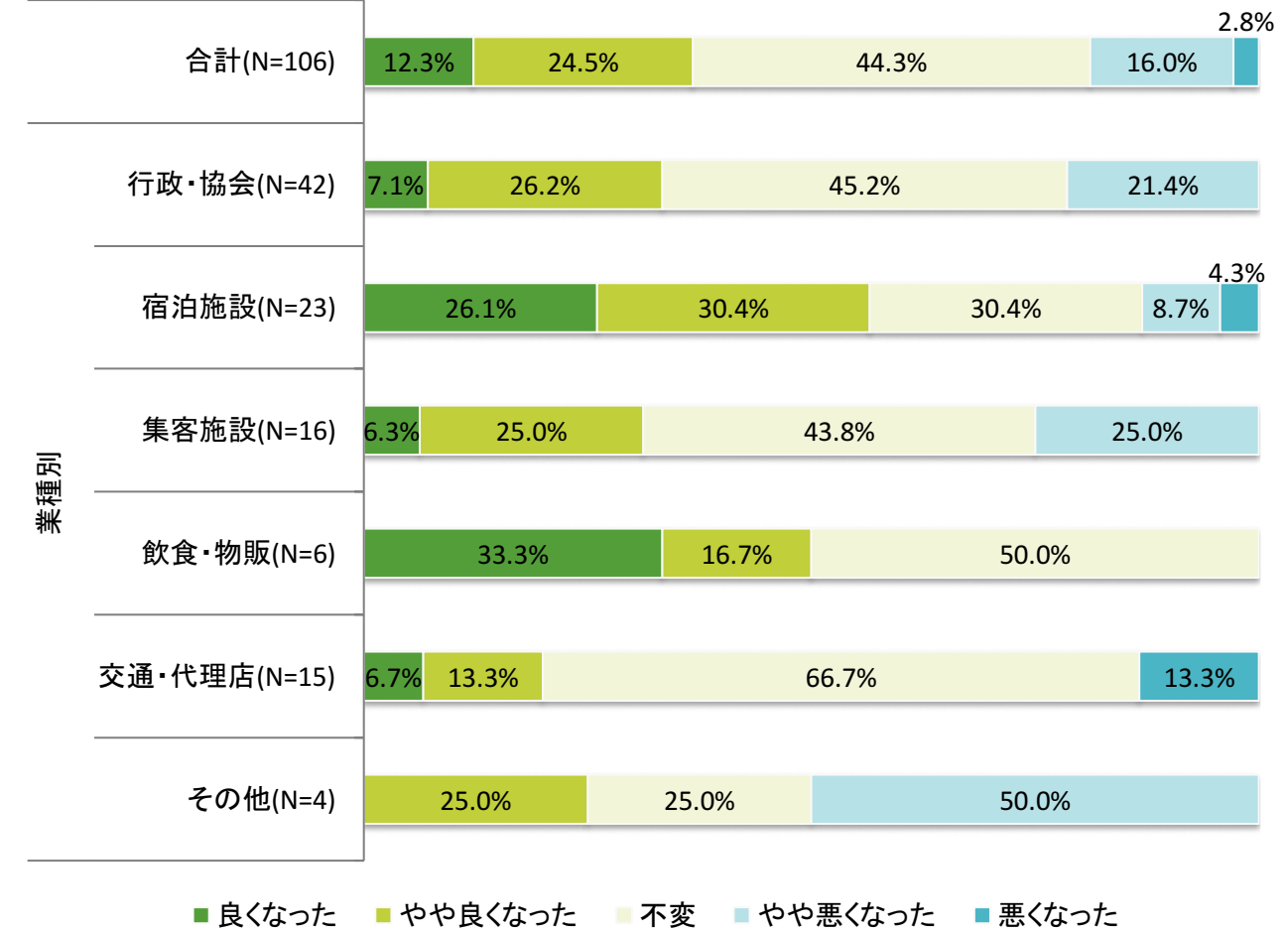
●良い
天候に恵まれ、インバウンドの集客増加の為。(飲食・物販)
11月から国内観光客が急に増え始め、インバウンドの落ち込みを完全にカバー出来たため。(飲食・物販)

●やや良い
スポーツイベントや学校行事などの稼働が多いため。(交通・代理店)
夏が落ちた反動か秋の連休シーズンの集客が好調だった。修学旅行の来園も例年並みに順調だった。(集客施設)

●普通
市内施設の客入りが例年程度であるため。(行政・協会)

●やや悪い・悪い
日中関係の悪化による中国人観光客の急減。(その他)
物価高騰による国内旅行客の減少、中国人日帰りインバウンド客の減少。(行政・協会)

3. 7～9月期に比べた10～12月の動向、景況感



7～9月期に比べた10～12月の動向・景況感は、全体では「良くなった」と「やや良くなった」の合計が36.8%、「悪くなった」と「やや悪くなった」の合計は全体で18.8%となり、前者の比率が高い結果となった。

【コメントの抜粋】

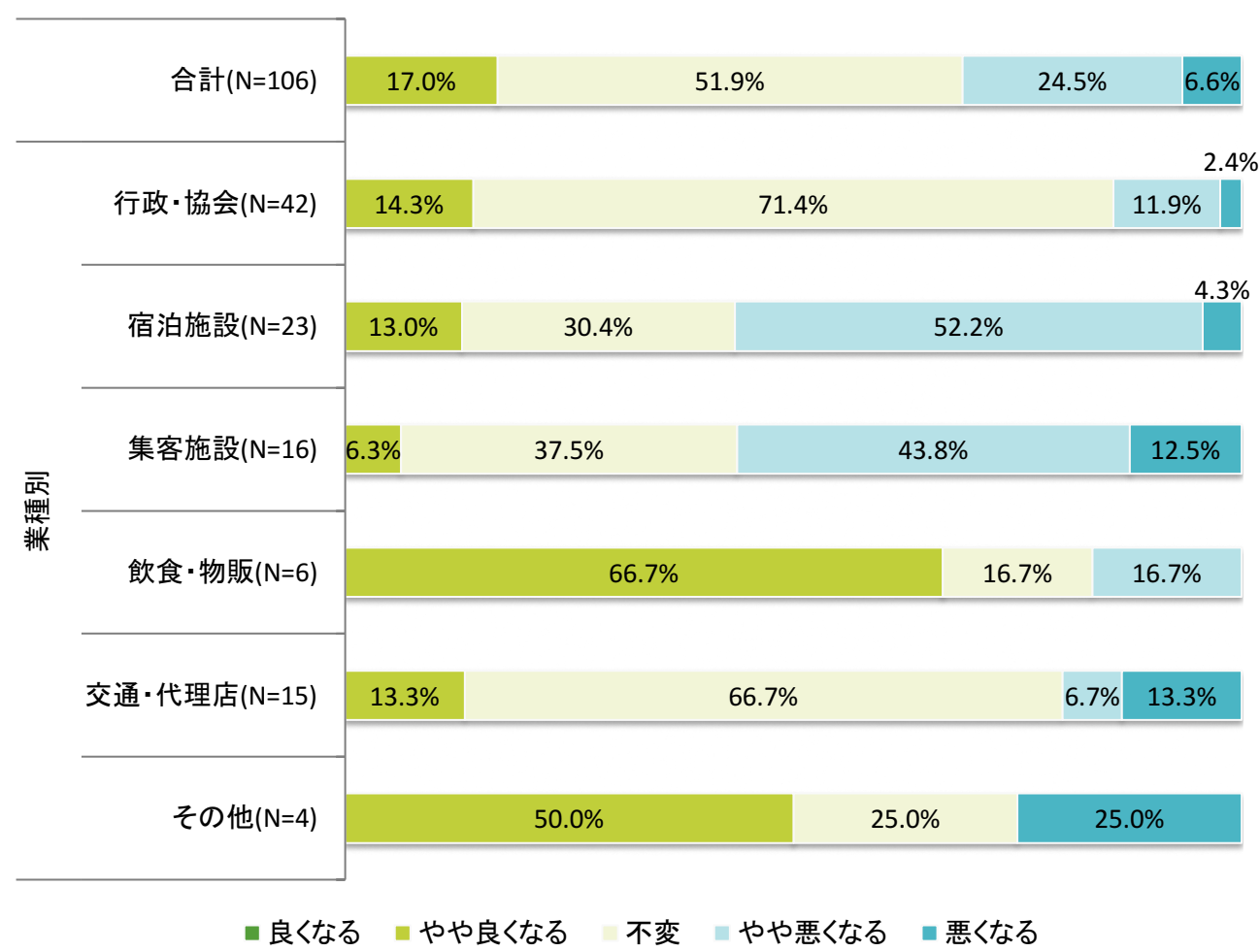
●良くなった
7～9月は毎月昨年実績に負けていたが、10～12月は各月とも昨年実績を超えたため。(飲食・物販)
7～9月期と比べて多くのイベントが開催され、各イベントに多くの来場があった。(行政・協会)

●やや良くなった
稼働、宿泊単価共に上昇傾向。(宿泊施設)

●不変
昨年と変わらないため。(交通・代理店)

●やや悪くなった・悪くなった
昨年度より入園者数減。(集客施設)
インバウンド客の減少。(その他)

4. 今後、2026年3月までの業況の見通し



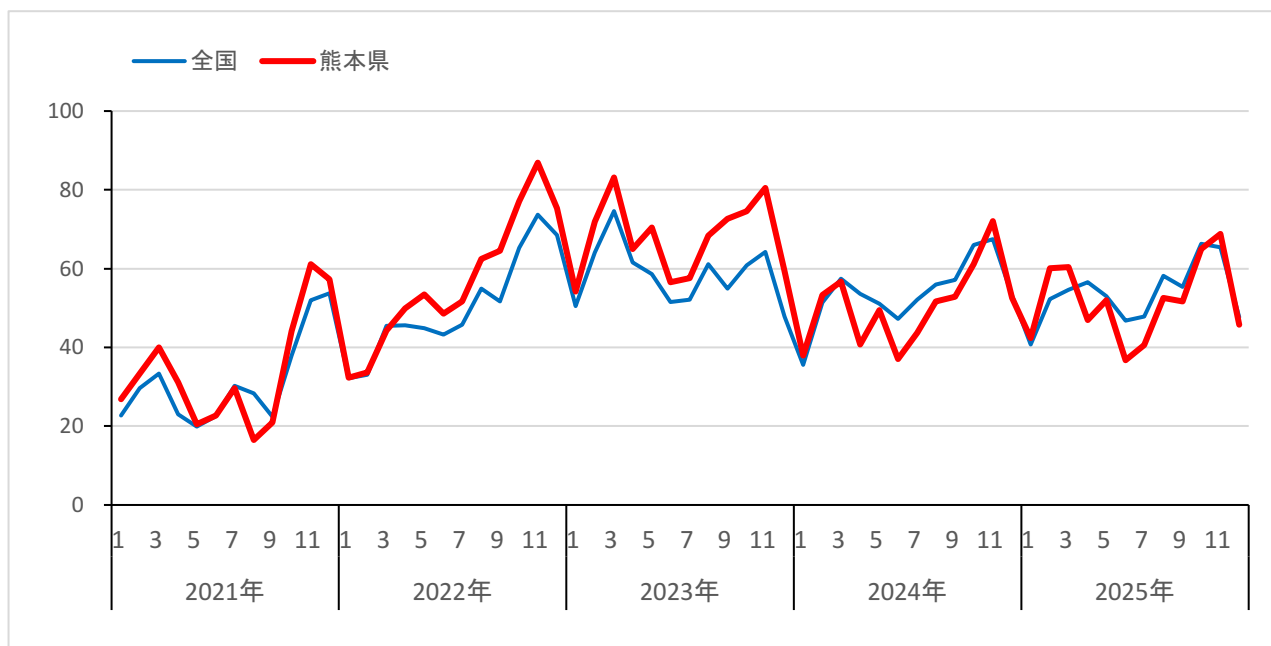
今後2026年3月までの業況の見通しは、全体で「良くなる」と「やや良くなる」の合計は17.0%、「悪くなる」と「やや悪くなる」の合計は31.1%となった。
業種別にみると、宿泊施設、集客施設の2業種で「悪くなる」と「やや悪くなる」の合計が過半数を占める。

【コメントの抜粋】

- やや良くなる
営業政策の充実。(飲食・物販)
熊本空港の台湾・韓国直行便増加で更にインバウンド増加が見込める。(集客施設)
- 不変
物価の高騰が続くことで消費は伸びないと思われる。(集客施設)
中国との関係悪化の影響は引き続き続くと思われ、大きな改善要素はない。(交通・代理店)
通常の冬季シーズンが低調であり、今期もそのように予想。(行政・協会)
- やや悪くなる・悪くなる
中国からの団体観光客の減少。(集客施設)
例年低迷時期。(宿泊施設)
秋の繁忙期と比較すると当然ながら数字は落ちる。貸切バスの公示運賃引き上げにより、バス利用をやめる学校や団体も出ている。(交通・代理店)

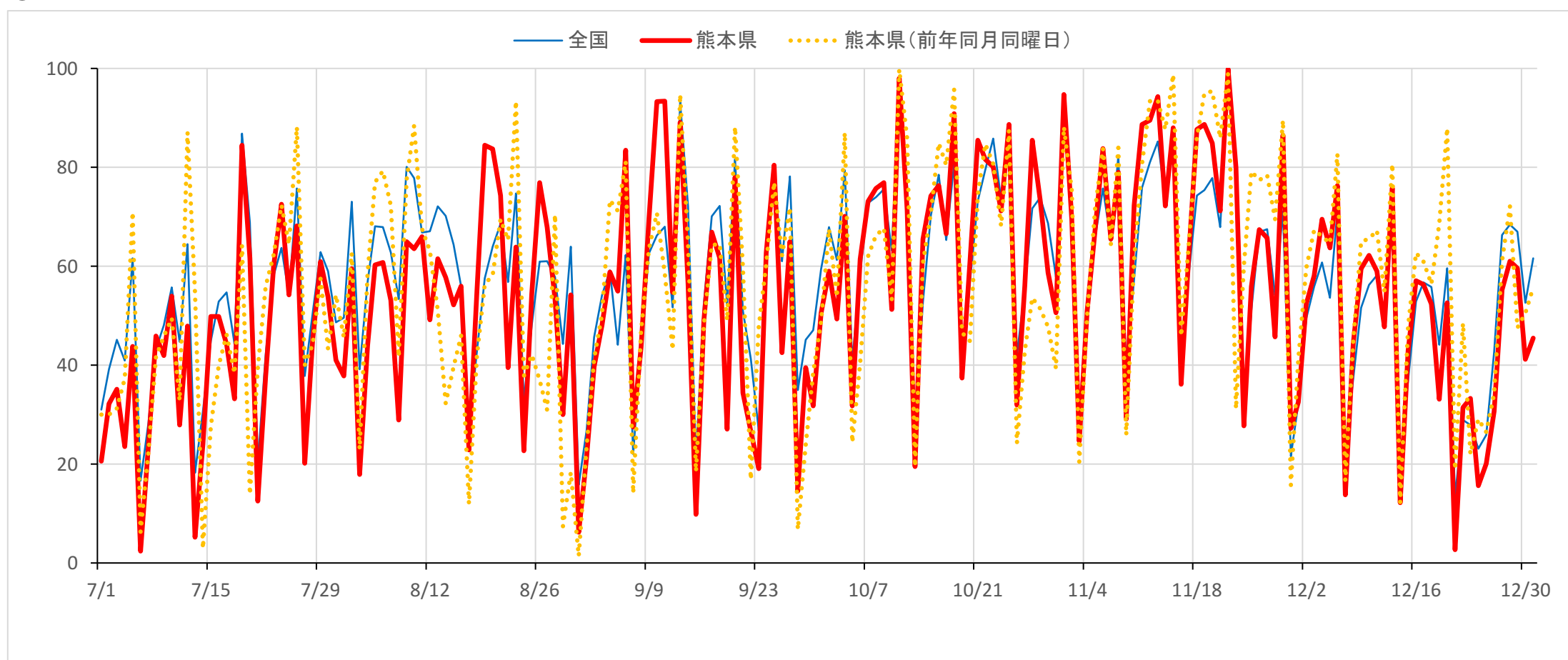
5. 宿泊稼働指数の動向

①月次別(2021年1月～2025年12月)



2025年10月における熊本県の宿泊稼働指数は64.9(前年同月差+3.7pt)、11月は68.8(同▲3.3pt)、12月は45.7(同▲6.8pt)となった。
2025年9月から同年12月まで、10月を除き前年同月の指数を下回り、特に12月は低下幅が大きい。全国同月指数との比較では、11月に全国を上回ったのを除き、2025年4月以降は下回る月が続いている。
地域別にみると、熊本市、阿蘇市、南小国町などで、今期の宿泊稼働指数が県全体の指数を上回る高水準で推移している。同地域のDI調査におけるコメントを見ると、インバウンド需要の増加、国内観光客の持ち直しを背景とした好況を指摘する声が挙げられている。

②日次別(2025年7月1日～12月31日)



熊本県の宿泊稼働指数を日次別(原数値)でみると、10月中旬から11月下旬にかけての行楽シーズンには、週末を中心に指数が比較的高位で推移している。一方、12月は中旬以降を中心に、やや落ち込みがみられた。今期で最も指数が高かったのは11月22日(土)であり、3連休の初日に当たっていたことや、3日間を通した天候が比較的安定していたことなどが、指数を押し上げた要因と考えられる。
指数の前年同期差をみると、プラスとなった日は、10月に18日、11月に12日、12月に3日間あり、指数はやや低下傾向にあることがうかがえる。
全国との比較では、平日を中心に熊本県の指数が全国を上回る日が多く、期間を通じてその傾向が顕著であった。一方で、土日祝日においては熊本県の指数が全国を下回る日が多かった。

用語解説

※DI(ディフュージョン・インデックス)
同調査におけるDIは、現在の景況感(現状判断)、現在と比べた3ヶ月後の見通し(先行き判断)に対する5段階の判断に、それぞれ点数を与え、これらの回答区分の構成比(%)を乗じたものである。(良い…+1、やや良い…+0.75、変わらない…+0.5、やや悪い…+0.25、悪い…0)。DIが50を超えた場合、景気が上向いていることを示す。

※宿泊稼働指数
宿泊稼働指数は日次の空室の水準を指数化したもので、(公財)九州経済調査協会が推計・公表。原数値は 0 から 100 の間の数値をとり、稼働状況が良い場合は100 に、稼働状況が悪い場合は0に近づく。なお、2020 年 4～6月分については、緊急事態宣言による休業が多く発生していたことから、同期間に営業していた施設のみを分析対象としている。
具体的には、以下の式より算出している。

$$100 - \left(\left(\text{当日の空室数} - \text{当日を含む過去730日の最小空室数} \right) / \left(\text{当日を含む過去730日の最大空室数} - \text{当日を含む過去730日の最小空室数} \right) * 100 \right)$$

本稿では、①月次別では、日次(原数値)データを7日間周期のデータとみなして要因分解し、曜日要因を除いたものを単純平均したもの、②日次別では原数値を使用している。